

## メッセージアウトライン

### ガラテヤ 6：11~16「私たちが誇るもの」

「ご覧のとおり、私はこんなに大きな字で、自分のこの手であなたがたに書いています」(11) パウロはかつてダマスコ途上で復活のイエス・キリストに出会いまばゆい光で照らされ地面に倒れ、一時盲目となったことがあった。使徒 9:1~8 その影響からか、彼は目に弱さを覚え、手紙を書く時は代筆してもらっていたようである。しかし今この手紙の最後の結びにさしかかり、やむにやまれず、筆を取って自らこの終わりの部分を執筆したのだろう。それゆえ私たちもよくよく注意して聞かなければならない。

ガラテヤ諸教会の人々に割礼を強制する者たちの動機は二つあるとパウロは見抜いている。(12) それは第一に「肉において外見を良くしたい」という思い。第二に「キリストの十字架のために迫害を受けたくない」という思いである。この二つは密接に関係しており、それらの根本にあるものは、人に良く思われたいという願望と、なるべくこの世の人々と衝突しないですませたいという人間的知恵にほかならない。

「なぜなら、割礼を受けた人たちは、自分自身が律法を守っていません。それなのに彼らがあなたがたに割礼を受けさせようとするのは、あなたがたの肉を誇りたいためなのです」(13) 彼らは人には割礼を強制するが自分たちは他の律法を守っていなかった。パウロは彼らの実際の生き方を知っていたのである。その彼らが異邦人に割礼を強制するのは、その実績を評価されて誇り高ぶるためであった。「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません……」(14)はパウロはここで自分自身の信仰の確信を語るために「私には」と言っている。これは誰にもゆずるわけにはいかないとの決死の思いが見える。なぜ彼はそれほど十字架を強調するのか。それはこのキリストの十字架以外には救いはないからである。人を罪と死とさばきから救い出してくださるイエス・キリストの十字架以外に、パウロを始め私たち信じる者にとって誇るべきものがあってはならない。

「割礼を受けたか受けないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です」(15)とパウロは言う。それはキリストの十字架によって与えられる新生のことであり、イエスを救い主として受け入れた者の上にこれは実現している。

コリト 5:17

「どうか、この基準に従って進む人々、すなわち神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように」(16)

この「基準」とは新しい創造、つまりキリストにある新生を意味する。「神のイスラエル」とは血のつながりによるイスラエル民族のことではなく、イエス・キリストによって救われ、永遠の滅びから永遠のいのちへと移され、新しく生まれ変わった人々のことを指す。それはすなわち信仰者の群れであり教会である。この神のイスラエルの上に平安とあわれみがありますようにとパウロは祈る。

私たちもこの世にあって、ただイエス・キリストの十字架のみを誇りとして、福音を宣べ伝え、良きわざに励んでいきたい。